

<学科試験>

■出題傾向

『ライフプランニングと資金計画』については、社会保険関連以外の分野の出題が増え、5問出題された。『タックスプランニング』については、問題36の個人事業税や問題38の益金不算入として減算できるものなど、これまであまり問われたことがない項目が出題された。ただし、総じていえば出題傾向に大きな変化はなく、過去問と類似した問題が中心だった。

■問題のレベル

『タックスプランニング』については、従来のレベルを超える問題や従来よりも細かい内容を問う選択肢が一部に見受けられ、難易度が高かった。他の科目については、基本的な知識を問う問題が多く、従来と同レベルといえる。

■特記事項

問題30の投資主体別の動向に関する問題は、計算を絡めた問題であり、正解を導くのに時間がかかったと思われる。また、問題55の宅地の相続税評価額（自用地評価額）の計算問題は、複数の補正率表が資料に記載されていたため、どれを選択してよいか戸惑った受検生も多くいたと思われる。

<実技試験>

■出題傾向

過去に出題された問題の類似問題が多く、出題傾向に大きな変化はない。

■問題のレベル

一部に難易度の高い問題も含まれているが、基本的な知識を問う問題も散見されるため、従来と同レベルといえる。

■特記事項

問20の相続税において相続財産から控除できる債務に関する問題、問22の相続税における「小規模宅地等の評価減の特例」に関する問題は、類似した問題が学科試験の問題54、問題57でも出題された。また、問36の所得控除の額の合計額に関する問題は、源泉徴収票の読取りと人的控除の正確な知識が問われている。

<総括>

今回は『タックスプランニング』の難易度が高く、他の科目でカバーできたかが合否の1つのポイントと考えられる。

学科試験、実技試験のいずれも過去の傾向と異なる問題はあったものの、基本的な知識を問う問題や定番の問題に対する準備ができていれば、十分合格点に到達できたと思われる。

※このシートは、2021年5月23日に実施された試験を、山田コンサルティンググループが独自に分析し総括したものです。あらかじめご了承ください。